

『一人の笑顔のために』

玉名荒尾中体連陸上競技大会

下記の通り素晴らしい成果を収めてくれました。夏休みも暑い中、早朝から頑張ってくれた生徒や大会で一生懸命のがんばりを見せてくれた選手の皆さんに心からの拍手を送ります。

- | | | |
|------------|----|-------------|
| ◆2年男子100m | 3位 | 中村 優希くん(2年) |
| ◆代表男子1500m | 3位 | 北原理一朗くん(3年) |
| ◆代表男子3000m | 4位 | 北原理一朗くん(3年) |
| ◆1年女子100m | 3位 | 柿原 埜亜さん(1年) |
| ◆代表女子800m | 3位 | 鍋島 彩里さん(3年) |
| ◆代表女子1500m | 4位 | 鍋島 彩里さん(3年) |



上記の入賞以上にうれしかったことがあります。

大会当日、選手は三加和中のテントで待機をしているのですが、時間があると3年生の二人が1・2年生の靴も含めて、並んでいない靴をだまって並べてくれていたのだそうです。大会から学校に帰ってきた監督の先生が、「その姿に感動しました」と伝えてくれました。

さらに、大会翌日の朝、登校してきたその3年生の一人に「昨日はお疲れ様でした。」と声をかけたところ、「昨日は応援ありがとうございました。」と応えてくれたのです。常に周囲への感謝の気持ちを忘れないその姿が、東京オリンピック2020のオリンピック・パラリンピアンとの姿と重なり、胸が熱くなりました。

永平寺の開祖である道元禅師は日々の修行の中に「履き物を揃える」という行為を組み込んでいたそうです。履き物を揃えることは「自分自身を見つ



める」「自分の行いを振り返る」ということにつながると考えていたのでしょう。

以前、私がバレーボールの指導をしていた頃、多くの大会に参加しましたが、毎回のように自分のチームの靴だけでなく、その体育館の靴全てを並べている選手たちを見かけることができました。長崎県のチームでしたが、そのチームは、毎年のように全国大会に出場する強豪校です。

「はきものを揃えることで心を整える」それが、強さの秘訣なのかもしれないと感じていました。

はきものをそろえると心もそろう
心がそろくと はきものがそろう
ぬぐるときにとそろえておくと
はくときに心がみだれない
だれかが みだしておいたら
だまってそろえておいてあげよう
そうすればきっと
世の中の人の心もそろうでしょう

藤本 幸邦(長野県円福寺住職)